

事務事業評価シート

(評価対象年度：令和2年度)

1. 基本的事項【PLAN】

①事務事業名	老人医療助成事業				②事業番号	4610	
③事業類型	3. 政策推進事業			④開始年度	昭和 46 年度	⑤終了予定年度	令和 2 年度
⑥根拠法令等	法令	☐ 条例	☐ 規則	要綱	計画等	☐ その他	法令等の名称 泉南市老人医療費の助成に関する条例及び同条例施行規則
⑦実施手法	直営	全部委託	☐ 一部委託	補助・負担	その他		
⑧関連予算科目コード	款	3	項	1	目	10	細目 1
⑨担当部名	福祉保険部			⑩担当課名	障害福祉課		
				会計 一般会計			

2. 事務事業の現状把握【DO】

〔1〕事務事業の目的・事業内容

(1)対象(誰、何に対して事業を行うのか)	対象指標(対象者数を表す指標)	単位
① 65歳以上の障害者等	① 対象者数(月平均)	人
②	②	
(2)事業内容(具体的な事務事業の内容、どのような方法で実施しているか)	活動指標(活動の量を表す指標)	単位
・身体障害者手帳1・2級所持、療育手帳A、身体障害者手帳1～6級と療育手帳B1所持、特定疾患患者票所持、結核患者票所持、自立支援受給者証所持の方に医療証の交付、医療費の支払い。一日一医療機関につき500円の自己負担かつ、一か月上限3000円の自己負担。	① 件数	件
	②	
	③	
(3)意図(対象をどのような状態にしたいか、何をねらっているのか)	成果指標(意図の達成度を表す指標)	単位
障害者が安心して医療を受けられる。	① 医療助成費	千円
	計算式	
	②	
	計算式	
	③	
	計算式	
(4)結果(対象を意図する状態にすることで、何に結びつくか。上位施策との関連)	総合計画体系上の位置付け	
必要な医療が必要な時に受けられることにより、疾病の治癒及び早期回復、対象者及びその家庭の身体的・精神的負担の軽減が図れるので、福祉医療の充実に結びつく。	政策(章)	2 みんなが健やかで、みんなが助け合うまち
	施策大(節)	2 すべての市民が生産にわたって健康な生活を送れるまちをめざします
	施策中	1 医療環境の充実
	施策小	3 福祉医療の充実

〔2〕各種指標値、事業費の推移

	指標名	単位	H30実績	R1実績	R2実績	R3見込	R3目標	
対象指標①	対象者数(月平均)	人	385	270	238	0	-	指標値の推移における特殊要因などの説明
対象指標②								
活動指標①	件数	件	12,694	8,963	7,188	1,488	-	
活動指標②								令和3年3月末に制度はすべて終了するが、審査及び支払月の関係で、R3年度にも支払いが発生する。
活動指標③								
成果指標①	医療助成費	千円	29,778	20,725	14,646	3,714	-	
成果指標②								事業費などの推移における特殊要因などの説明
成果指標③								
事業費	投入人員	正職員	人	0.43	0.43	0.45	0.45	
		任期付職員	人	0.01	0.01	0.00	0.00	
		臨時職員	人	0.00	0.00	0.00	0.00	
	事業費	人件費(投入人員*単価)	千円	3,519	3,350	3,434	3,434	令和3年3月末で事業終了。
		直接事業費	千円	30,687	21,400	15,158	3,766	
		総事業費	千円	34,206	24,750	18,592	7,200	
財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0	
	府支出金	千円	19,397	9,662	7,097	1,889	0	
	受益者負担金	千円	0	0	0	0	0	
	その他特定財源	千円	5,405	2,612	1,724	0	0	
	一般財源	千円	9,404	12,476	9,771	5,311	0	

〔3〕事務事業開始の経緯、状況の変化、評価結果への対応

①この事業を開始したきっかけは何か。	65歳以上の身体障害者及び知的障害者の健康の保持及び生活の安定を求める医療費軽減の機運が醸成されたため。
②開始から現在までこの事務事業を取り巻く状況は、どのように変化したか。また、今後どのように変化していくと考えられるか。	令和3年3月31日に事業終了。
③前年度の評価結果を受けて行った改革・改善の取組はあるか。	—

3. 事務事業の評価【CHECK】

〔1〕目的妥当性(必要性)			A.高い	B.やや高い	C.やや低い	D.低い	〔1〕の評価	A
評価項目		評価及び理由・説明等						
①事業サービス内容、質、規模等は市民のニーズや社会環境に合っていますか。 (他団体と比較してどうですか。)		ア. 合っている アイ. ある程度 ウ. いない	高齢化社会が進む中、安心して十分な医療を受けることができる環境整備は不可欠である。					

〔2〕有効性			A.高い	B.やや高い	C.やや低い	D.低い	〔2〕の評価	A
②期待どおりの成果が得られていますか。		ア. 得られている アイ. ある程度 ウ. いない	関係課と連携のうえ、対象者を正確に把握し、制度適用しているため、福祉の増進の一助となることができている。					
③今後事務事業を工夫することで成果向上の余地はありませんか。 (事務事業の成果指標をさらに伸ばすことができませんか。)		ア. ある イ. ない	条例に基づき実施する事業であり、助成対象者は限定されるため、成果向上の余地はない。					
④庁内の他部署で、類似の目的を持つ事務事業はありませんか、それらと統廃合や連携を行うことで、より成果を向上できませんか。		ア. 類似なし イ. できる ウ. できない	令和2年4月より、機構改革により、障害福祉課へ事業移行となった。					

〔3〕効率性			A.高い	B.やや高い	C.やや低い	D.低い	〔3〕の評価	A
⑤成果を下げずに事業を工夫してコスト(直接事業費＋人件費)を削減する手法はありませんか。 (業務改善、業務の委託化、委託業務内容の見直し、IT化などはできませんか。)		ア. ある イ. ない	大阪府補助事業であり、事業費のほぼ全額が扶助費のため、事業費の削減はできない。職員は現状のままなので、人件費についても削減できない。					

4. 総合評価

総合評価	評価(A～D)	個別評価の結果を踏まえて課題等を整理	A:現状のまま事業を進めることが適当 B:課題が少しあり事業の一部見直しが必要 (事業の進め方に改善が必要) C:課題が多くあり事業の大幅な見直しが必要 (事業規模、内容、実施主体の見直しが必要) D:事業の統合、休止・廃止の検討が必要
	A	平成30年度末に新規受付が終了し、終了時に資格があった受給者については経過措置として令和2年度末まで給付を継続してきたが、令和3年3月31日をもって事業を完全に終了した。	

5. 改革、改善案【ACTION】

＜今後の方向性＞	
ウ	ア. 現状のまま継続 イ. 見直しのうえで継続 ↓ ウ. 終了 エ. 休止 オ. 廃止 (R2 年まで) (年 から) (年 から)
	＜今後の展開方針＞ a. 重点化する(集中的なコスト投入) b. 手段を改善する(実施主体や実施手段を変える) c. 効率化する(コストを下げる) d. 簡素化する(規模を縮小する) e. 統合する(他の事務事業と統合する)
①改革、改善の具体案、実施年度など	
②改革・改善を実現するうえで、解決すべき課題及び考えられるその解決策	